【高等学校用】

令和３年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立致遠館高等学校

1　前年度 評価結果の概要	・学校の教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できているといえる。 ・次年度に向けて、本年の取組をさらに深化させ、「知・徳・体」の充実に向けた教育活動を展開していきたい。 ・本年度の課題を精査し、各種業務を精選・改善することで、行き届いた教育活動につなげたい。また、働きやすい職場づくりや働き方改革を推進する。
2　学校教育目標	**世界の中の日本人として、未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。**
3　本年度の重点目標	**①授業・部活動・学校行事等をとおして、「知・徳・体」のバランスをとれた若者を育成する。 ②学校生活や様々な活動をとおして、「生徒の生きる力（自ら判断し、適切に行動する力・困難に打ち勝つ力）」を醸成する。 ③高い志をもち、主体的に進路目標を定め、その実現に向け、生徒が学習に精力的に取り組み、教職員が的確な指導・支援を行う。 ④教職員にとって働きやすくてやりがいを感じる職場づくりと、１ヶ月の時間外在校等時間を４５時間以内とする働き方改革を推進する。**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果
●学力の向上	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○進路希望の確定率90%以上を達成する。 ○家庭学習時間3時間以上を確保する。 ○3点固定（起床・就寝・学習開始時間）を確立する。	・目標設定に係るアンケートの実施。 ・Classiで家庭学習時間を把握し、適切に指導を行う。 ・学習指導をとおして、予習→授業→復習のサイクルの確立を図る。	B	・学校評価アンケートでは、全体の7割の生徒が学習時間を確保できていると回答したが、下期の家庭学習時間調査の結果、3年生は3時間以上確保できたが、1年生は2.4時間、2年生は2.6時間で目標達成には至らなかった。しかし、HRや個人面談等で進路意識を高めることで、上期より学習時間が増加した。 ・概ね、3点固定及び予習→授業→復習のサイクルは確立しているが、まだ学習習慣が十分に身についていない生徒も見受けられる。
	○基礎学力の向上と応用力の向上	○授業をとおして学力が向上したと感じる生徒90%以上。	・基礎学力の定着を図るための小テストや定期考査に向けて計画的な学習指導を実施する。 ・授業アンケート等をとおして、生徒の学習意識の確認する。 ・展開授業や少人数授業を実施し、個々に応じた指導の充実を図る。 ・定期考査前に学習会を実施する。	A	・生徒の学習状況調査を行い、授業をとおして学力が向上したと感じる生徒が96.5%と目標を大きく上回った。また上期の調査結果を生かして授業改善を図ることで、下期は数値が更に上昇した。 ・展開授業や少人数授業の実施に加え、3年生には個別指導の充実を図り、希望進路や能力に応じた指導を行った。 ・定期考査前の学習会の実施により、学習意欲の喚起と計画的な学習への取組を促すことができた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学年や個人でのボランティア活動への参加率100%を達成する。 ○図書室の貸出冊数を一人20冊以上にする。	・読書啓発活動の実施。 ・主権者教育に係る講演会を実施し、社会を構成する一員であるという意識を醸成する。 ・日々の交通指導、挨拶指導、清掃活動をとおして、公共心を養う。	A	・学校評価アンケートでは、挨拶や他者への思いやりを大切にしながら生活することができたと肯定的な回答した生徒がどの学年も95%を超え、豊かな心の育成を図ることができた。また、交通マナーをはじめとする社会のルールを守ることができていると回答した生徒も95%を超えた。 ・本の貸出冊数は生徒一人あたり2.4冊と目標を達成できなかったが、図書館報や読書会を通じて読書意欲を喚起することができた。 ・主権者教育講演会を通して、学校の主権者である生徒が主体となって学校をつくるという意識を高めた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ重大事案の件数0を目指す。 ○いじめ問題の解消率100%を達成する。	・アンケート(年2回)の実施。 ・週1回の生徒指導部会をとおして、生徒の実態を継続的に把握する。 ・問題が発生した場合は、迅速に会議を開き、組織的に対応する。	A	・アンケートや学年団からの情報を生徒指導部や教育相談部、保健指導部等で共有して早期の解決を図り、いじめの重大事案件数は0件であった。 ・学校評価アンケートでは、98%の生徒がいじめをしない・させないという意識を持って行動できていると答えた。また、学校のいじめの早期発見・早期対応についても、8割以上の生徒・保護者が好意的な回答をしている。しかし、実態を把握し切れず対応できなかったものもあり、来年度更に改善を図る必要がある。
	○人権･同和教育の推進	○人権･同和問題に対して主体的に理解しようとする生徒、教職員を100%とし、問題に対する意識向上を図る。	・人権･同和教育に係るホームルーム活動を学年ごとにテーマを設定して実施する。 ・教職員及び生徒を対象とした人権･同和教育に係る講演会を実施する。	A	・人権学習・進路保障HRの授業を実施した教職員から授業改善のアイデアや意見が出され、次年度に向けた教材開発がなされる等、人権・同和教育の推進に向けた取組が活発化した。 ・教職員及び生徒を対象として、人権・同和教育講演会を実施し、多様な文化を尊重することの大切さについて理解を深めた。
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を100%にする。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒を100%にする。 ○特に受験期における飲食物摂取の過多・過少に気を配り、自ら食生活を管理できる態度を養う。	・「保健だより」などを活用し、朝食の重要性を伝え、生徒の意識を高める。 ・個々の生徒について、職員間で情報交換を行い、必要に応じて生徒や保護者に対し相談・アドバイスを行う。	A	・学校評価アンケート結果では、85%以上の生徒・保護者が適切な食習慣を身につけていると回答した。また、高校2年生を対象とした朝食についてのアンケートでは、100%の生徒が大切だと回答し、喫食率は90%だった。 ・「保健だより」を毎月発行し、感染予防や食生活を含めた生活習慣の改善などについて知識理解を深め、健康管理への意識を高めた。 ・個々の生徒についての状況については、学年・教育相談と情報共有し、協力して生徒・保護者に対応できた。
	○部活動（社会体育を含む）や課外活動への意欲的な参加	○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%にする。	・部活動体験入部期間を設けるなど加入を促進する。 ・ボランティア等の課外活動への参加を促す。 ・年間部活動計画を策定し、保護者や生徒にもHP等を通じて周知する。 ・部活動休養日を計画的に設定する。	A	・年間を通して部活動加入率90%以上を達成することができた。 ・校内外含め、ボランティア活動の情報があれば積極的に生徒へ周知し、参加を促すことができた。 ・部活動基本方針に基づいた適切な休養日の設定を徹底することで、休養日の取得は改善した。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週1日は定時退勤日を設定する。 ・業務記録を各週ごとに確認し、職員の時間外在校等時間の自己管理を徹底する。 ・会議や行事の縮減と業務の効率化を図る。 ・部活動指導は年間計画に基づき行い、休養日を適切に設定する。	B	・時間外在校等時間については、月平均で35時間以下で上限を下回ったが、2割近くの職員が上限時間を超過しており、完全な目標達成には至らなかった。 ・出退勤管理システムによる時間外在校等時間の自己管理、毎週1回の定時退勤日の設定、会議や行事の縮減と業務の縮減と効率化、適切な部活動休養日の設定等を促し、職員の意識を高めた。
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員が90%以上。	・職員アンケート(年1回）の実施。 ・ハラスメント研修(年3回)の実施。 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を再確認する。 ・校内での職員の相談体制の周知徹底。 ・衛生委員会の充実。	A	・アンケート等で「働きやすい職場である」と答えた職員は90%を超え、目標を達成することができた。 ・年度当初に職員の相談体制の周知を図り、学期ごとにハラスメント研修を実施することができた。 ・月1回のゼロの日の設定により、教育公務員としての自覚を促すことができた。 ・衛生委員会を毎月開催して情報交換を行い、産業医の指導・助言を得ながら、働きやすい職場づくりに生かすことができた。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果
○教育の質の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進 ○ICT利活用教育の推進 ○大学入試を見据えた指導の充実	○意欲的、主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めた教員100%。 ○ICT利活用教育に取り組んだ教員100%。 ○大学入試を見据えた効果的な授業のあり方について各教科で研究協議し、指導力を高める。	・毎月1回公開授業を実施し、指導力の向上を図る。 ・ICTを利活用した授業を実施する。 ・入試問題の分析をし、それを踏まえた校内テストの作問を行う。 ・生徒による授業評価を実施し、その結果に基づいて、授業の改善を図る。	A	・コロナ禍におけるオンライン授業の準備・実施を通して、ICTを活用した教材の研究や指導法について教科の枠を超えてお互いに学び合い、ICT利活用教育への取り組みは大きく進んだ。 ・大学入試分析や授業評価、公開授業実施後の合評会等を通じて、各教科内で授業改善に取り組み、新学習指導要領や大学入試を見据えた教科指導力の向上を図ることができた。
◎志を高める教育	○SSH事業の活用 ◎主体的に行動する姿勢と自律心の養成	○課題研究・探究活動をとおして、実験や調査等での試行錯誤をもとに教訓を作り、主体的に学びに活用した経験のある生徒を80%以上にする。	・課題研究・探究活動において、「試行錯誤から学ぶ力」や「協働的に取り組む姿勢」の育成につながる指導法の開発に取り組む。	A	・中間発表会を実施することで、自分たちの研究・探究の内容を客観的に振り返り、取組の改善や深化につなげることができた。 ・SSH事業に関するアンケートでは、90%以上の生徒が、課題研究・探究活動をとおして、試行錯誤を行い、その後の実験や調査等に活かして、取組を改善することができたと回答した。
○普通科教育の充実 ○理数科教育の充実	○国際的な視野と高いコミュニケーション能力の育成 ○科学技術の発展や情報化社会に寄与できる人材の育成	○英語の外部検定試験を受験する生徒100%、英検2級取得率80%を目指す。 ○学習用PC等のICTツールを使い、自らの考えをまとめ、プレゼンテーションできる生徒を100%にする。	・全職員が共通理解のもと、生徒に主体的な学びや学問の深さについて啓発する。 ・普通科1年生と2年生で探究活動を行い、発表会を実施する。 ・理数科2年生で課題研究を行い、中間発表会及び発表会を実施する。	A	・GTECの全学年実施により、英語の外部検定試験受験者は100%を達成した。一方、英検2級以上の取得率は高校3年生で70%を超え（準1級取得者14名）で、目標には届かなかったが昨年度を大きく上回った。 ・理数科2年生で課題研究中間発表会を実施した。プレゼンテーション演習の実施により、全ての発表班でICTを活用し、研究内容を下級生にも伝わるような工夫がなされていた。聴講した下級生の評価も極めて高かった。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学校教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できたが、生徒の主体的な学習への取組や職員の働き方改革には課題が残った。 ・次年度高1からスタートする新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の実践へ向けて、授業改善・指導力向上を図る。 ・次年度第4期のSSH事業のスタートに当たり、これまでの取組をさらに深化させ、探求活動（普通科）、課題研究活動（理数科）の充実を図る。 ・本年度策定した「目指す学校像（スクール・ミッション）」に基づいて、魅力ある学校づくりを推進する。